

ノーラエンジニアリング

フェライト系ステンレス配管システム

福島で工場増設 需要増 に対応

ステンレス17日、戦略商品のフェライト系ステンレス配管システム「NFS工配管」の需要増に対応するため、増産投資を実施したと発表した。製



手前が出荷ヤード、奥が新工場

善、設備増

炭素鋼鋼管が主流の

設を行い、生産能力をまず5割増強した。3月から新体制の立ち上げを徐々に進め、4月から本稼働入りさせる。総投資額は約4億5千万円。

空調用、雨水・蒸気用配管などでステンレス化を狙っており、2015年4月の納入開始以来19年末までに150件超の納入実績がある。高耐食性を生かして約半分に薄肉化でき

東北ノーラ（本社・福島県二本松市、社長・糸澤尚人）ノーラエンジニアリング常務営業本部長で工場建屋を倍増し、レイアウト改善、設備増

NFS工法はSUS430LX鋼管と自社CFジョイントを組み合わせて、プレハブ加工したフェライト系ステンレス配管システム。建築物の耐震強化に伴う建築用配管の長寿命化ニーズや、現場施工の負荷軽減・安全向上を促進する軽量化ニーズに適する。

るため、配管長さ当たりのコストは炭素鋼鋼管とほぼ同等で、SU3304に対しては熱膨張率の低さも特長。雨水用配管での採用事例が最も多いが、今後は特に空調用配管の採用拡大が見込まれる。東北ノーラはフェライト系配管とオーステナイト系配管を製造し、フェライト系がほぼ7割を占める。フェライト系配管の売上規模は19年度8億円の見込みで、20年度は12億円を目指す。

鉄鋼新聞；
2020年02月19日付

ノーラエンジニアリング 福島県の新工場棟が完成

ステンレス加工管を拡充

ノーラエンジニアリングのグループ子会社の東北ノーラ（福島県二本松市、糸澤尚人社長）は、フェライト加工管事業のさらなる飛躍を目指し、ステンレス加工管の主要製造拠点の1つである二本松工場敷地内（福島県二本松市）に、新工場棟を完成した。

二本松新工場では、ステンレス加工管の専門工場として、高い国際競争力を持つ高付加価値製品を提供していく。生産効率の最大化を図り、工場の操業に伴う環境負荷低減にも積極的に取り組み「世界No.1のステンレスプレハブ加工工場」を目指す。

新工場で生産するフェライト加工管は、今後も市場の大きな伸びが期待され、同社の最重要分野の1つだ。